令和６年５月１７日

亀岡市議会議長　菱田　光紀　様

亀岡市議会議会運営委員長　福井　英昭

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の結果について、亀岡市議会会議規則第１１０条の規定により下記のとおり報告します。

記

１　派遣期間　　令和６年４月２２日（月）～２３日（火）

２　派遣場所　　東京都町田市、神奈川県茅ケ崎市

３　調査項目　　議会改革の取組について

４　派遣議員
福井英昭、木村　勲、竹内博士、大石慶明、三上　泉
山本由美子、平本英久、　（議長：菱田光紀）

５　概　　要　　別紙のとおり

視　察　概　要

◎令和６年４月２２日（月）

視 察 先　東京都町田市議会

視察時間　午後１時３０分～３時３０分

調査項目　議会改革の取組について

説 明 者　木目田英男議長（挨拶後退席）
鈴木秀行議会事務局長、水元友朗議事担当課長、
五十嵐大悟議事係担当係長

視察の様子

視察場所	東京都町田市議会
調査項目	議会改革の取組について
視察の目的	町田市議会は早稲田大学マニュフェスト研究所の議会改革度調査２０２２において、情報共有部門で全国１位、特に「議案のカルテ」の取組では「第１５回（２０２０年）マニフェスト大賞」のコミュニケーション戦略分野において最優秀賞を受賞されている。そのような取組事例を学び、情報共有の向上等を目指す本市議会の課題解決やさらなる改革に向けての参考とする。
施策等の概要	**町田市議会の主な取組** ・あえて議会基本条例を制定しない方針での議会改革の取組 ・路線バス等への議会告知ポスターの掲出 ・市議会公式ツイッター（Ｘ）の活用 ・議会に対する市民意識調査の実施 ・議案のカルテの取組 ・タブレット端末の導入（理事者側がすでに導入） ・高校生との意見交換会の実施 ・相模原市議会との包括連携協定による取組 など
考察	○議案カルテや意識調査、高校生との意見交換など、市民との情報共有を図るための先進的な取組を実施されていると感じたが、一方で、議会基本条例を制定しない意図はわからなかった。町田市議会では、様々な取組をされているが、ＤＸの面では、執行部が７５％も電子決裁化できているからこそ、進められている部分もあると考える。また、議会事務局員の人事異動がなく、同一の職員が永年にわたって議会そのものの取組を進めている感があり、今後、新たな考え方の議員で議会を構成した場合、既存の枠組みの中で新たな考え方が暴走する可能性もある。やはり、議会基本条例などをおき、人が変わっても議会活性を進めていけるようにしていくべきではないかと感じた。ツイッター（Ｘ）の活用や、告知ポスターなど、亀岡市議会にも取り入れるとよい可能性のあるものもあった。 ○本市議会の傍聴者は、ほぼ同じメンバーではないかと感じる。町田市では、市民の関心を持ってもらうためのポスターをコミュニティバスや路線バスに掲出しているため、本市においても取り入れることを検討してはどうか。 ○高校生と町田市議会議員の意見交換会の開催について、本市も

	中学生との意見交換は行っているが、１８歳から選挙に参加できるようになったため、若い人にも市政・議会に関心を持ってもらう取組を考えてはどうか。 ○情報共有の中でも「議案のカルテ」に代表される“情報整理”を亀岡市としても取り入れたいが、それにはホームページにおいて独自のドメインを取得できるかが課題である。時期を見て独自ドメイン取得によるホームページのリニューアルを考えてもよいと考える。 ○議会への関心度を上げることが亀岡市でも課題となっており、町田市では高校生議会や親子傍聴席の設置などが一定の効果を得ている。亀岡市でも「子どもファースト宣言」により、子育て世代や、比較的若い世代をターゲットとして見据え、これらを導入することは有意義であると考える。 ○他市の多くが外部への発信を重きに置くなかで、町田市の「関心を持ってもらい、いかに来てもらうか」という内部に軸足がある姿勢は是非とも見習いたい。 ○あえて議会基本条例を制定しない方針ゆえに「提案があったものは試行してみる」がモットーのようだが、亀岡市は条例がある中で、いかにフレキシブルに対応できるかが課題である。 ○町田市は、議案説明時に理事者の提案理由説明を省略しているが、そのような進め方で議案の深掘りができるのか疑問であった。 ○議会開会の通知を路線バスや市広報誌等を活用して行っていること、議案カルテを作成し、議会での審議内容をタイムリーに発信していること等は参考にすべきであると考える。 ○高校生との意見交換会及び各常任委員会による市民団体等との懇談会の取組は参考にすべきと考える。 ○当市においてもタブレットを活用し、執行部との情報共有化を推進すべきと考える。 ○子ども連れの方もおられるので、新しい議場を建てるときに親子傍聴席をつくって、子どもがぐずっても外に出なくてよいようにされていた。大変立派な親子傍聴席であった。本市の場合、臨時的に調整室を代用できないか。 ○議案説明会については、議案の詳細について知りたいという議員の声から始まったそうである。最近は、議案説明会の説明と本会議の説明があまり変わらなくなっているので、どうしようかという議論もあるようである。議案説明会のオンデマンド配信を始められたので、後からでも観ることができる。本市の場合、提出議案の概要を市長や理事者から聞くときは、聞き置く程度とすることになっているが、少し質疑があってもよいのか

	なと思う。その日の午後には記者発表されて、あたかも施策ができるかのように報道されてしまい、市民から質問を受けることもあるので、検討してみたい。 ○議会告知ポスター、告知チラシについて、コミュニティバスや神奈川中央交通バスに無料で掲載してもらっている。副市長が東京都から来られており、東京都の例を出して町田市でも実現できないかと提案された。空きが出たら無料で掲示してもらうという約束になっている。タクシーの車内広告は、ご厚意で、後部座席のモニターに無料で掲載してもらっているそうである。（１０台ほど）。町内会配布のチラシを掲示や回覧してもらっている。これを見て来られる方もいるそうである。そのようなことが本市でもできるのか検討してみてはどうか。 ○Ｘ（旧：Ｔｗｉｔｔｅｒ）の活用について、定例会開催告知、議案提案内容の紹介、議会だよりの発行、行政視察の受け入れなどを、フォロワーの方に発信されている。運用方法は、コメント、メッセージもいただくが、プッシュ型で原則返信は行わないということであった。フォロワーは１，０００を超えていて、年間１００新規フォローがあり、広がっている実感があるということであった。本市はＦａｃｅｂｏｏｋだけだが、一度、広報広聴会議で検討してみたい。 ○タブレット端末＆会議システム導入については、ペーパーレス化で、紙の削減量が議会事務局で約７万６千枚、総務課で５０万枚以上ということであった。また、資料提供速度の向上が図られた。その他、議員が市民相談や情報収集などに活用したり、災害時の連絡ツール（安否確認）に活用したりされている。町田市で大きな効果を生んでいる理由は、議会だけでなく、市役所全体で徹底して利用していること、執行部と共同で導入したことが大きい。本市も、どのようにタブレット端末を活用し、市の執行部と共有できるかが課題である。議案の審査の時にも、サイドブックスで共有して審査ができるとありがたい。方法を考えていきたい。 ○高校生議会、意見交換会については、これまでに市内の高校生３６名が参加して計６回行われてきている。開かれた議会にするためには敷居を低くすることが大事であると思う。町田市は、第３回目以降、ワークショップ方式からワールドカフェ方式にして、気軽に話せる、主体的な議論を産み出そうとされてきた。議会の体験としての議会質問形式の体験とワールドカフェ方式の気軽な意見交換をミックスしたものができるとよいなと思った。開催にあたって、町田市は、高校訪問など、連携を密に取り、学校単位で申し込みをしてもらうこととし、広報

	用ポスター掲示依頼、広報（議会だより、プレスリリース、ＨＰ、Ｘ、市内バスの車内掲示）にも力を入れられていた。また、意見を市政に生かすべく、市長への報告、回答書の作成などのフィードバックの方法、定例会での一般質問による議員の取り上げ、ダイジェスト動画の公開（ＹｏｕＴｕｂｅ）など、本市でも参考にすべき取組であると感じた。 ○議会のカルテについては、いち早く市民に議会の審議・審査内容を報告するため、ホームページ上に「議会のカルテ」が掲載されており、非常にわかりやすく市民に関心を持ってもらう取組の１つであるが、町田市ではホームページを独自ドメインで作成していると言われていたので、本市の議会ホームページにおいて作成が可能であるか、また、事務局の事務作業量など調査が必要と考える。 ○路線バス等への議会告知ポスターの掲出については、特に問題なく無料で協力いただき、市民が議会に興味、関心をもってもらう取組であると認識したが、本市に導入する場合、ポスター作成費用や事業者の協力、効果など調査が必要と考える。 ○高校生との意見交換会については、テーマを決めワールドカフェ方式で行い、議員がファシリテーターを務め、忌憚のない意見を引き出している。開催後は実施報告書を市長へ送付し、高校生からの意見・要望などに対して執行部から回答書を受け、高校へフィードバックしている。また、議員が高校生の意見・要望を市政に反映させるために一般質問に取り上げている。参加した高校生からは市議会への関心が向上し、参加してよかったとの感想があり、市議会にとっても次代を担う若い世代の考えなどを直に聴く機会となり、貴重な取組であると感じた。本市に導入するに当たっては、参加していただく学校側の理解と協力が必要であり、地元の高校以外に通う市内在住者の意見も聴く機会にしていくかどうかについても検討が必要であると考える。また、町田市議会の事務局から学校との調整など負担もあるとの話を伺ったことから、学校と議会双方の負担をできる限り軽減する中で、開催方法など考えていく必要がある。 ○その他として、町田市議会のホームページにはキッズ・学生向けページを作成し、市議会の仕組みなどについて分かりやすく紹介しており、本市においても市議会に対する理解や関心を高められるよう工夫し作成できればと考える。町田市議会以外の議会においても作成しているが、対象とする年代は様々なことから、対象者をどう考えるか、検討が必要である。 ○議会基本条例を制定なされないことについては別段理由はないと思われる。公共交通機関での議会広報は成果として未知数

	であり、町田市のように無償協力であれば行っても良いと考える。公式Ｘ（元ツイッター）を活用することが、すなわち市民関心の増加につながっているとは考えにくい。まずは議会に関心を持って貰うほうが先決だと感じる。議案のカルテについては即応性があり、関心の高い市民にとっては魅力的な制度で導入を検討してもよいと考えるが、システムを整備するのにコストが掛かるのではないか。 ○本議会でもタブレットを導入しているが、執行部のタブレット導入または情報共有の在り方が課題である。 ○高校生との意見交換会は本市議会の広報広聴活動の中で行っていることに非常に近く、今後も継続・拡充していきたい。 ○他市町との包括的な連携協定について必要性は感じるものの、それぞれの市町の制度や体制が異なることから、互換性が得られない場合は、制度や利点を導入するにあたっての課題が大きく、継続することが困難である。情報共有や要望活動等は有効であると考える。 ○議案のカルテについては、議決経過等をいち早く市民に知らせる手法として導入を検討する余地がある。 ○タブレット端末の導入について、本市と違い理事者側が先行して導入していた。本市では理事者にペーパーレス化も含め、タブレットの導入を求める余地がある。 ○高校生との意見交換会においてワールドカフェ方式を採用している。より参加しやすい場づくりの手法として有効であると考える。
委員意見等	○ホームページや執行部の電子決裁化についても、ある意味他力本願の上に成り立っている感が否めなかった。本市議会においても、今後よりよい広報や告知の方法、「わがまちトーク」などの取組を重ねていけば、先進事例に追いつけるのではないかと感じた。 ○本市議会では、２月の臨時号を含め、議会だよりを年５回発行しているが、市民が市政・議会にどれだけ関心を持っていただいているか、本議会の傍聴の人数を見れば寂しく感じる。町田市議会が行っている２つの施策（広報の手法、高校生などとの意見交換）を早期実行すべきと考える。 ○タブレット導入の課題解決策として、１人につき３デバイスまで、議会システムを利用可能にすることを本市でも早急に行うべきと考える。 ○情報共有全般について、亀岡市よりも先進的かつ戦略的に取り組まれていた。亀岡市では、タブレット導入におけるペーパーレス化が目下進行中であるが、亀岡市との大きな違いは、議会

	よりも先に執行部が導入し、すでに下地があるところに、追って議会がタブレットを導入した経緯があり、スタート時の状況やレベル感が大きく異なる。その点を考慮し、本市でも導入できそうな事例（例えばバスやタクシーの広告配信、町内会のチラシにカレンダーを共有、議会傍聴の受付名簿の廃止など）も数多くあった。優先順位を考慮し実現可能なことから始めてみる価値はある。 ○町田市は議会開催の案内や常任委員会と市民団体との懇親会の活性化などに積極的に取り組み、傍聴者の増加を果たすなど、開かれた議会に向けて成果を上げている。また、議案カルテを掲載することにより、審議内容をタイムリーに発信するなど、当市としても参考にすべき点が多くあり、今後、取り入れることも検討していく必要があると感じた。 ○議会基本条例をつくってから取組を行われるところが多かったが、町田市の場合はあえてつくらずに、できることから取り入れていく手法で行ってきたという。それは、形だけ整える自治体が見受けられたので、名より実をとるということでそうされたのだと思う。その考え方は分かるが、法令準拠・遵守の自治体や議会の体（てい）が基本であるから、条例もちゃんとあって、実のある議会改革・活性化をしようとする本市の姿は理想的なのだと思う。 ○先進市では、議会報告会や懇談会など、議会から外に向かって出ていくものが多いが、町田市の場合は、議会に来てもらう取組を重視したという。市民に関心を持ってもらおうというのが狙いとのこと。町田市の場合、議会運営委員会だけでなく、議会改革特別委員会をつくっている。常任委員会化の声もあったそうであるが、それはできないので、毎回立ち上げておられる。今１７期であるが、今期も特別委員会を立ち上げており、同じ名前を付けられないというルールがあり、今回は第１７期町田市議会改革特別委員会という名称でスタートしたとのことである。ユニークな特別委員会でだと思うし、意気込みややる気を感じた。ただ、議会運営委員会とのすみわけはどうなっているのかなと思った。 ○行政視察において、全委員が報告文を作成される。多い議員は７０ページほど書いて提出していただいているので、オンブズマンが来られてもこれを見せると「ちゃんとやってるな」と５分で帰られたそうである。長ければよいというものではないが、それなりにしっかりと報告されている。本市の場合は今のこの形式でよいと思うが、本市もオンブズマンが度々来てチェックするような時代になれば、それなりの説明責任を果たせる

	ようにしなければならない（何事にも）。それくらい、議会に関心を持っていただける市民が増えることは望ましいと考える。 ○タブレット端末＆会議システム導入について話を聞いていると、資料の保存や編集などもやりたい人は町田市のように、会議システム富士ソフトｍｏｒｅＮＯＴＥがよいと思うのだろう。私もそちらのほうがよいが、ｓｉｄｅｂｏｏｋｓとの性能比較は一長一短で、熟考したうえで、ｓｉｄｅｂｏｏｋｓに決めたのだからそれは仕方がないと思う。いずれにせよ、市理事者側と共有できるように早くなればよいと思う。 ○市議会定例会・委員会等の傍聴やインターネットを見てもらうことを目的とした路線バス等へのポスター「市議会を開きます」の掲出や町内会・自治会に、市議会定例会・委員会等の傍聴をしてもらうことを目的としたパンフレット「町田市議会を傍聴しに行こう」の配布、高校生との意見交換の実施などについては議会に興味関心を持ってもらう取組として大変参考になった。 ○今回の行政視察を通して感じた事は、町田市議会も市民に議会や市政への関心を高めるために様々な取組にチャレンジされているが、コロナの影響などもあり、傍聴者の減少を食い止めるために苦慮されている。市民理解及び関心を得るための広報については、本市議会と同様に様々な取組を通じて試行錯誤されているのが現状である。そのような中、子どもを連れて傍聴できるよう、防音設備を完備した親子傍聴室が設けられていることは特に興味深く感じた、今後本会議場の改修が行われる際には、ニーズ調査を行ったうえで検討しても良いと考える。高校生との意見交換については、本市議会でもこれまで高校生議会や中学生議会、子ども議会など類似する活動を広報広聴活動の中で行っており、若年層の関心を高めるという意味から、こうした活動をさらにブラッシュアップしながら継続していきたいと考える。議会への意識調査についても、亀岡市がアンケート調査を行う場合に相乗りして実施することを協議・検討するべきである。他市町との包括的な連携協定については、災害時の相互連携や地域間での移動手段確保など、連携可能なことについては引き続き協議・調整する必要があると考えるが、近隣市町とはいえ、互換性のない制度や体制整備についての連携については慎重に検討する必要があると考える。 ○議案のカルテを基に、各議会直後に 議決経過等も含め、議案の採決状況をいち早く市民に伝える手法の検討が必要であると感じた。本市では、議会がいち早くタブレットを活用してい

	るが、デジタル田園都市国家構想を踏まえ、理事者側に対してデジタル化を提案していくとともに、アフターコロナの中で市民との意見交換会を再開するにあたり、より参加者から意見が引き出しやすいワールドカフェ方式の採用を検討していくべきではないか。

視　察　概　要

◎令和６年４月２３日（火）

視 察 先　神奈川県茅ヶ崎市議会

視察時間　午前１０時００分～正午

調査項目　議会改革の取組について

説 明 者　岸 正明議長、角田直也事務局長（ともに挨拶後退席）

森永尚子事務局次長、藤原 崇議事調査担当次長補佐

須藤 巧議事調査担当次長補佐、橋本未央総務担当次長補佐

視察の様子

視察場所	神奈川県茅ヶ崎市議会
調査項目	議会改革の取組について
視察の目的	茅ヶ崎市議会は早稲田大学マニュフェスト研究所の議会改革度調査２０２２において、情報共有部門で全国７位となっており、その先進的な取組事例を学ぶことにより、議会改革の向上につなげる。
施策等の概要	**茅ヶ崎市議会の主な取組** ・決算事業評価の実施 ・政策討議の実施 ・議会報告会、意見交換会（アロハトーク）の取組 ・一般質問の重複調整の実施
考察	○決算事務事業評価については、実施している自治体が少なく、評価シートの在り方や、決算特別委員会との関係性、そのスケジュールなど、亀岡市議会との違いが明確にわかった。本質的に事務事業の取捨選択を議会から提示するというスタンスは同じであったが、本市は、茅ヶ崎市のように執行部と裏打ちして、評価を下げるというようなことはしていない。そういう意味でとても興味深かった。 ○議案説明会では、質疑することができないようであり、それであれば、本市のように、分科会で事前勉強会を行った方が効果的であると考える。アロハトークの取組については、ほぼ「わがまちトーク」と同じであったし、特に秀でたものは感じなかった。 ○一般質問の重複調整については、予備通告まで行う必要はない。重要な課題については、ある程度重複してもよい。むしろ、重複してこそ、執行部に対して議会が注目している議題や問題点を明確にできる部分もあると考える。 ○決算審査における事務事業評価の取組について、６月に特別委員会を設置し、６月定例会中に２回会議を開催し、３事業を選定されている。９月定例会中に１回会議を開催した後に市長に対して提言し、次年度の予算審査時に反映状況を報告させているが、本市と同じように２年のタイムラグがある。 ○アロハトークやデザイン性に富んだチラシ。編集によって見やすいＹｏｕＴｕｂｅ配信など、情報を発信する時の「確実に届くような手法」が大変参考になったが、課題は人材である。全てを事務局任せにせず、かつ特定の議員だけに偏ることのない

	ように、作業内容の整理と作業の配分をするためのシステム化が必要と感じる。 ○一般質問の重複調整は取り入れるべきだと感じたが、仮通告から調整するまでの時間が課題である。導入するなら茅ヶ崎市議会での手法（議員同士が自主的に重複調整）の「お試し期間」などを設けて、まずは実験的に実践してみるのが近道とも感じる。 ○政策討議を常任委員会ごとに行う手法は、導入することによる有用性を感じる。 ○事務事業評価については亀岡市でも実施しているが、同じく評価から反映までにタイムラグが生じる点は否めない。茅ヶ崎市の今後の改善方法も参考にしつつ、亀岡市でもさらに改良（評価項目など要検討）を加えてより良いものへ昇華させたい。 ○一般質問の重複調整に関しては、①各議員が支援者の声（要望）などを反映すべき、②一つの行政課題について、多くの議員が疑問点をもっていることを理事者側に周知すべきであるため不要であると考える。 ○アロハトークによる意見交換会もいかに広く周知し、参加者を多く集めるかという工夫が必要であると考える。 ○一般質問の仮通告制導入による重複調整については、それぞれの議会の規模（議員や会派の数など）や一般質問の形式にもよると思う。一問一答方式が多く採用されている本議会においてはさほど必要性は感じなかった。 ○町田市同様、意見交換会（アロハトーク）は、ワールドカフェ方式を採用している。市民が主役で一人一人が気軽に意見を出せる場の設定が大事だと感じた。本市もわがまちトークを再開するが、再開初回の取組が大事である。広報広聴会議で十分に準備をして臨みたいと思う。 ○４つの常任委員会で政策討議を重視されていた。２年間のスパンでテーマを選定し調査・研究して政策提言の素案を常任委員会で作成し、全員協議会で協議して議会としての政策提言書をつくりあげて市長に提言している。常任委員会の任期２年のプログラムを明確に決めて各委員会で取り組んでいるところは大いに参考にしたい。提案する議会として、必ず、２年間で政策討議をカタチにするというこだわりのある取組だと感じた。茅ヶ崎市では議員立案による条例制定の事例はないが、２年間テーマを決めてやるとした場合にどうしても政策提言に傾斜するのかもしれない。テーマによっては条例制定をゴールにできるのだとは思うが。 ○押しボタン式投票での採決や、議員名の標柱を立てると出席議

	員としてカウントされるなど、本市にはない議場のシステムもあったが、それは議場の大規模リニューアルの時でよいと感じた。まずは、本市の場合、電源の確保、映像のクリア化などから変えていきたい。 ○議会報告については、ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを開設し、議会の活動などを動画で紹介されている。テロップ・字幕などを使用し、わかりやすく作成されており、報告内容に関わるクイズも盛り込まれていて議会への興味関心を引く内容となっている。本市においても議会への関心が薄いとされている若年層にも見てもらえるような手法を検討できればと考える。 ○茅ヶ崎市では議会基本条例に基づき、参加者と議員がしゃべりやすい場づくりを目指して「アロハトーク」と題しワールドカフェ方式の意見交換会を午前の部、午後の部と二部制で開催し、対面かオンライン（ＺＯＯＭ）での参加を選択できるようにしている。参加対象者を中学生以上としており、決められたテーマに対して幅広い年代層から多様な意見を伺うことが期待できると考えるが、現在中学生の希望者はないと伺い、ターゲットを絞って開催する方がよいのかどうか、参加対象者について検討が必要である。 ○一般質問の重複調整の実施については、茅ヶ崎市議会では議員が住民の代表として一般質問を行うものであることから、前の議員が質問したことを後の議員が発言し、同じ答弁が繰り返されることはあってはならないとの考えから、仮通告を導入し重複した質問に対しては、議員間で角度や観点を変えて、重層的な質問が実現できるよう調整している。本市においては会派内で重複調整を行うよう徹底されているが、会派を超えた調整の必要性について考える機会となった。 ○決算事務事業評価については、ほぼ本市議会で行っていることと類似点が多い。本市議会の事務事業評価は（拡充）や（縮小）、（休廃止）と判定がしやすいが、（現状のまま継続）という分類に毎回違和感があり、茅ヶ崎市議会ではこの点を（改善）としていたことは非常に理解できる。 ○政策討議について、各常任委員会でそれぞれのテーマを抽出し、独自に調査・研究されている。本市議会においては、環境市民厚生常任委員会及び政策研究会などにおいて、同様の活動が行えていると考える。 ○年度を一つの区切りとして調査・研究を行うことは有用であると考えるが、各常任委員会などにおいてテーマを選定することが相応しいのか検討する必要がある。 ○市長に対する政策提言は、必要性に応じて行う必要があり、各

	委員会が毎年行う必要はないのではないか。 ○議会報告会及び意見交換会（アロハトーク）について、どの自治体においても、対面形式の議会報告会はニーズとのマッチが大きな課題である。 ○茅ヶ崎市議会で行われているＳＮＳでの情報発信（ＹｏｕＴｕｂｅ配信）は、手段として大変興味深いと考える。しかし、ＹｏｕＴｕｂｅなどの情報発信を議会事務局に全て任せるのではなく、議会が主体として企画運営出来ることが前提となる。 ○意見交換会（アロハトーク）は、フリートーク形式でグループ分けした上で席をローテーションするなど、堅苦しくならないよう工夫されており、本市議会としても取り入れることが可能であると考える。 ○広報や周知啓発をどのように行い応募するのかは課題である。 ○政策討議について、常任委員会ごとにテーマを決定し調査・研究を重ね、全員協議会で協議を行い、提言書を取りまとめ議会として議長から市長へ提言されている。 ○議会報告会、意見交換会の取組について、市民が参加しやすい場づくりをされている。
委員意見等	○両議会とも、事務局の思考が先行性をもっているように感じる。一つは、議会活性化の視察の説明に、議員が一切かかわっていないこと。本来なれば、説明まで議員がしてもよいくらいである。 ○情報共有が進んでいる部分もあるかもしれないが、議会や議員から滲み出てくる個性やカラーをあまり感じなかった。少し残念であった。 ○本市においても、事務事業評価を行っているが、９月議会から審査を行うため、茅ヶ崎市と同じように、早い時期から行うとさらに深い議論ができるのではないかと考える。 ○常任委員会内で討議することによって色々な意見が出るのではないか。 ○理事者側が廃止したい事業について、議員と評価について調整されたことがあったと聞き、このようなこともあるのかと理事者とのコミュニケーションの必要性を感じた。 ○亀岡市議会では「議会活性化」と言い出して２５年、様々な取組を行ってきたが、市民との情報共有という点においては、未だに遅れていると感じる。茅ヶ崎市議会においては、アロハトークやＹｏｕＴｕｂｅでの見せ方など、市民との距離を縮め、かつハードルを下げることに一役買っていると感じる。亀岡市議会でもＤＸ推進プロジェクトが立ち上がり、これから大きくテコ入れを行うフェーズだが、茅ヶ崎市議会を参考にしながら

	亀岡市独自の視点も取り入れて、市民との距離を縮める取組を進めていきたい。 ○当市において、政策討議は、特別委員会などで実施しているが、茅ヶ崎市では各常任委員会でも取組まれていることが特徴であり、今後については、当市でも導入について検討する必要があると考える。 ○一般質問と議案審査の順序入れ替えの経緯と成果について知りたいと注目していたが、数年だけの実施で元に戻したようだ。少し拍子抜けしたが、成果と課題があれば参考にしたかった。 ○決算審査における決算事業評価については、シートの評価項目は若干違うが、本市と同じような形式で行われていた。当時の流行りで始まった事業評価であるが、本市でもかなり洗練されてきて、事業も精選されてきたので、役割は果たしたという感がある。評価の点数配分などを改善したところなので、後しばらくは続けて実績をみるべきではあるが、今後の在り方について、そろそろ考え始めてもよいのではないだろうか。 ○茅ヶ崎市議会では議会に係る情報や活動などを知ってもらうためＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを開設し、予算・決算特別委員会の審査のポイントや議長挨拶、常任委員会の活動報告などをコンパクトにまとめ、わかりやすく発信しており、興味関心を引く内容となっていた。本市でもＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを開設し、常任委員会（月例）の録画配信を行っているが、それとは別に茅ヶ崎市議会のように視聴を継続したくなるような構成の動画をコンパクトに制作し、発信できればと思った。 ○一般質問の重複調整の実施については、茅ヶ崎市議会の「前の議員が質問したことを後の議員が発言することは考えられない」という考えに基づいて、仮通告を導入し重複調整を図っていることは理解できるが、議員同士で重複している質問内容の調整を行うことや早期の質問事項提出など負担もあることから、本市が現在会派内において重複しないよう徹底し、他会派の議員と重複した場合には違った角度や観点で質問するよう心掛けていることもあり、重複しないことが望ましいが、これまでどおりでよいのではないかと考える。 ○茅ヶ崎市議会での取組を本市議会に導入することは、難易度は高くないと考える。 ○各常任委員会において、年間のテーマを選定するにあたっては、各委員会別で抽出することがよいのか協議する必要があると考える。 ○政策提言は必要に応じて行うべきであると考える。

	○ＳＮＳなどを活用した議会報告会について、ＹｏｕＴｕｂｅで議会報告会を行うから関心が高まっているということではなさそうであり、市民ニーズがあれば導入していくことも検討していけばよいのではないかと考える。 ○意見交換（アロハトーク）に類する活動を本市議会でも広聴活動として行っており、今後、意見交換などに多くの市民が関心をもっていただけるよう検討していきたい。 ○アロハトーク（意見交換会）の広報ポスターは大変センスもよく、市民の方の目を引くのではないかと考える。本市には霧の芸術祭のメンバーがおられるので協力を求めても良いのではないか。 ○アロハトークというネーミングは親しみやすく受け入れやすいため、本市議会としても工夫して導入していく必要があると考える。また、アロハトークの開催日は土曜日であり、市民ニーズを調査したうえで、必要であれば地下の開かれたアトリエを活用して実施することも検討してはどうかと考える。 ○政策討議について、本市議会では各常任委員会において取組テーマを設け、必要に応じて提言などをまとめている。また、会派、常任委員会をまたぐ形で政策研究会を立ち上げて取り組んでおり、現状を継続していけばよいと考える。 ○議会報告会、意見交換会については、町田市と同様に誰もが参加し意見を出しやすい場づくりへの工夫を続けていくべきである。